

藤前干潟サイエンスカフェ2024

要 申 込
無 料

化石をきれいに保存する丸い石
天然のタイムカプセル
「球状コンクリーション」のナゾを解く

これがコンクリーション。
そもそも
「コンクリーション」
ってなあに？

日 程

2024年2月24日（土）14：00～15：30

（開場13：30～）

会 場

環境省稲永ビジタセンター （名古屋市港区野跡4-11-2稲永公園内）
あおなみ線・市バス「野跡駅」下車、徒歩15分 注）公共交通機関をご利用ください

定 員

40名（要事前申込み）
（申込締切日2月17日（土）まで 応募者多数の場合抽選）

対 象

小学校4年生以上（小学生は保護者同伴）

申込先・
問い合わせ

藤前干潟ふれあい事業実行委員会事務局（名古屋市環境学習センター内）
※毎週月曜日休み（祝日の場合はその翌平日）電話は9：00～17：45
〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号伏見ライフプラザ13階
TEL：052-223-1067 FAX：052-223-4199 Eメール：ecopal@n-kd.jp



講 師

YOSHIDA Hidekazu
吉田 英一氏
（名古屋大学博物館館長）



申込フォーム

主催：藤前干潟ふれあい事業実行委員会



2月2日は世界湿地の日
湿地の保全に関するラムサール条約が
1971年2月2日に採択されたことを記念した日です!

講師：吉田英一氏

名古屋大学博物館館長・教授（理学博士）

1962年宮崎県に生まれる。
1986年名古屋大学大学院理学研究科（地球科学専攻）
修了。
核燃料サイクル機構（現日本原子力研究開発機構）を
経て、2000年名古屋大学博物館助教授、2007年同博
物館准教授、2010年から同博物館教授／館長に就任。
専門は応用地質学。
球状コンクリーション研究の第一人者。

ツノガイという貝



まるでクワイ!?
これもコンクリーション



海底に埋まって
数年～数十年経つと...

藤前干潟サイエンスカフェによせて

球状コンクリーションは、海底に生息する生物の死後、海底堆積物中
に埋没し、微生物活動によって分解される有機炭素がその堆積物中で
拡散しつつ、海水中のカルシウムイオンと急速に反応して、炭酸カル
シウム（方解石： CaCO_3 ）となって生物を取り囲むように形成される
ものである。この炭酸カルシウムの結晶（鉱物）が、堆積物中の空隙
をセメント（シーリング）することで内包される生物遺骸は、数十万
年、数百万年以上もの（長いものでは数億年）間、良好に保存される
ことが明らかとなってきた。また近年の研究で、藤前干潟に生息する
アナジャコの実も同様のメカニズムで固くなることも分かってきた
（未公表）。これらの「自然に学んだ」メカニズムを応用して、コン
クリーション化剤を開発し、現在、実際の地下環境での実証実験も展
開中である。サイエンスカフェでは、これらのコンクリーションの現
象や応用についての最新の知見を紹介したい。

干潟の人気者 ヤマトオサガニ



カニも!?
コンクリーション



海底に埋まって
数年～数十年経つと...

会場へのご案内

稲永ビジターセンター



あおなみ線・市バス「野跡駅」下車、徒歩15分
注)なるべく公共交通機関をご利用ください

藤前干潟ふれあい事業とは？

藤前干潟の魅力を皆さんにお伝えするために、
名古屋市、環境省、愛知県、NPO等が協力して
さまざまなイベントを行っています。
今回は、藤前干潟でアナジャコの研究をしている
吉田先生を講師にお迎えし、いつもとは違った
視点から海の生きものの話をして頂きます。

干潟の人気者のカニや
アナジャコも登場します!



アナジャコ

写真提供：名古屋大学博物館